

風よ ふるさとよ

詩 きむらいずみ

小さな 町に生まれ
小さな 花を育てた
小さな 夢を求めて
生きてきた ふるさと

^{かぜ}春風は 町を渡り
夏には 花を揺らした
秋の実り 運べば
町包む 木枯らし

見えない 炎が溶け
見えない 光が散った
見えない 影に脅えて
ふるさとを 追われた

あの日から 町は遠く
人は 離れ離れに
成すすべも ないまま
風さえも 恨んだ

風よ 教えてよ
私の 深く愛した
あの ふるさとは 今
何を 思っているのか

風よ 伝えてよ
たとえ 遠くにいても
ふるさとを 今も
私は 愛していますと

小さな 町に生まれ
小さな 花を育てた
小さな 夢を求めて
生きてきた ふるさと

すべての 人が
すべての 花が
すべての ^{いのち}生命が
輝く風よ 興れ